

事業群評価調書(平成30年度実施)

基本戦略名	9 快適で安心・安全な暮らしをつくる	事業群主管所属	環境部地域環境課
施策名	(5) 良好で快適な環境づくりの推進	課(室)長名	吉原 直樹
事業群名	② 大村湾・諫早湾干拓調整池の水質改善	事業群関係課(室)	諫早湾干拓課、水環境対策課、環境保健研究センター
基本戦略名	9 快適で安心・安全な暮らしをつくる	事業群主管所属	環境部地域環境課
施策名	(7) 人と自然が共生する地域づくり	課(室)長名	吉原 直樹
事業群名	④ 大村湾周辺地域の里海づくり	事業群関係課(室)	自然環境課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)	(取組項目)
<p>9-(5)-② 閉鎖性の強い海域である大村湾の環境保全と水産資源の回復を図るため、下水道施設の高度処理化や貧酸素水塊※対策に取り組みます。また、諫早湾干拓調整池の水質改善のため、流入負荷削減対策など、国、県、市の関係機関で連携して取り組みます。</p> <p>9-(7)-④ 変化に富んだ独特な景観を持つ、日本有数の閉鎖性海域である大村湾の魅力を活かすため、多様な生物が数多く生息することができる豊かな海づくりを進めるとともに、海の恵みを持続的に活用できる地域づくりに取り組みます。</p> <p>※貧酸素水塊:主として夏場に海底部で発生する酸素濃度が極端に低い水の塊</p>	<p>i) 生物を活用した大村湾や諫早湾干拓調整池の水質浄化の取組(事業群9-(5)-②、事業群9-(7)-④)</p> <p>ii) 大村湾流域別下水道整備総合計画に基づく下水道施設の高度処理化の推進(事業群9-(5)-②)</p> <p>iii) 希少野生動物種保存地域の指定(事業群9-(7)-④)</p> <p>iv) 再生砂による浅場づくり(事業群9-(7)-④)</p>

事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	9-(5)-② 大村湾の水質 (COD※75%値平均) ※COD(化学的酸素要求量)の略。海域、湖沼の水の有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す指標。	目標値①		2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L	2.0mg/L (H32)	
	実績値②	2.5mg/L (H26)	2.1mg/L	2.0mg/L					進捗状況	
	②/①		80%	100%					順調	
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	9-(5)-② 諫早湾干拓調整池の水質 (COD 75%値平均)	目標値①		-	-	-	-	5.0mg/L (H32)	5.0mg/L (H32)	
	実績値②	7.9mg/L (H26)	7.4mg/L	7.4mg/L					進捗状況	
	②/①		-	-					—	
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	9-(7)-④ 大村湾沿岸に再生砂で造成する浅場に生息が見込まれる二枚貝の個体数	目標値①		0個体	80万個体	80万個体	160万個体	160万個体	160万個体 (H32)	
	実績値②	0個体 (H26)	-	185万個体					進捗状況	
	②/①		-	231%					順調	

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				29年度事業の成果等	中核事業	
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)			指標	主な目標	H28目標	H28実績			達成率
				H29実績							H29目標	H29実績			
				H30計画							H30目標				
1	「いさかん」水辺の保全推進事業 地域環境課	H28-30	13,233	2,433	6,454	諫早湾干拓調整池	諫早湾干拓調整池の水辺環境の保全と創造を図るため、諫早湾干拓調整池中央干陸地におけるヨシの刈り取りや利活用に係る基礎調査、環境学習などを実施した。	活動指標			ヨシの刈り取り面積(ha)	41	3	7%	
			2,656	956	6,436				3	3		100%			
			4,717	4,717	6,396				-	7.4		-			
2	大村湾環境総合対策事業 地域環境課	H28-30	43,613	8,171	1,608	大村湾流域	大村湾の水質を保全するため、大村湾をきれいにする会が事業主体となって実施する大村湾浮遊ゴミ除去対策事業に対する補助を行った。	活動指標	浮遊ゴミ除去の延べ出隻数(隻)	132	132	100%	大村湾沿岸の漂着ゴミの清掃活動、県民の環境保全意識の定着により、浮遊ゴミの除去量は減少傾向にある。		
			18,028	11,665	4,023					132	132	100%			
			32,480	11,180	7,996					35	22	62%			
										23	20	86%			
3	取組項目 諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業 地域環境課	H25-	6,065	2,878	8,454	諫早湾干拓調整池	「第2期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」を推進するため、各種事業の進捗管理や各種イベント等に参加し、水質保全の必要性を説明した。	活動指標	諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業参加者数(人)	1,500	3,200	213%	地域の住民等に対し、調整池の恒久的な水質保全と水辺空間づくりの必要性に関する啓発等に寄与した。		
			5,033	3,033	8,046					3,000	3,200	106%			
			5,670	2,172	7,996					-	7.4	-			
4	内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究(研究) 環境保健研究センター	(H29 終了) H28-29	2,482	2,482	-	諫早湾干拓調整池	諫早湾干拓調整池における内部生産と難分解性溶存有機物の実態を把握し、淡水性二枚貝(イケチョウガイ、ニセマツカサガイ、マジミ等)による効率的な水質浄化手法について検討した。	活動指標	淡水性二枚貝の成長・生残特性及び自然再生産可能性調査(回数)	8	8	100%	調整池ではイケチョウガイなどの大型二枚貝の飼育に適していることが示唆された。また、一定の水質浄化機能を発揮させるためには生存条件(水温、波浪)の管理手法を確立する必要があることが判明した。		
			2,234	2,234	-					6	6	100%			
			-	-	-					-	-	-			
5	諫早湾周辺地域環境保全型農業推進事業 諫早湾干拓課	H25-	7,326	0	-	諫早湾干拓調整池	諫早湾周辺地域において、肥料使用量削減等の環境保全型農業による現地実証を行い、環境に優しい農業の推進を図った。	活動指標	国、関係機関との事業打合せ(回)	3	3	100%	パレイショ、ブロッコリー 減肥(窒素、リン酸)技術展示圃の設置、研修会、チラシの作成などの啓発活動を実施し、環境に優しい農業の推進を図った。		
			8,170	0	-					3	3	100%			
			8,500	0	-					3	3	100%			
										3	3	100%			

6	取組項目 ii	(特)大村湾南部流域下水道事業(公共)	H5-42	67,925	0	-	大村湾流域	大村湾南部浄化センターの水処理施設を高度処理化する工事を施工した。また、計画的な改築更新を行うためのストックマネジメント計画を策定した。	活動指標	協議会等開催回数(回)	5	5	100%	高度処理化工事の進捗が図られた。また、ストックマネジメント計画に基づく計画的な改築更新ができるようになった。	○
				290,545	0	-			5	5	100%				
				805,000	0	-			5						
	水環境対策課	成果指標	放流水質の遵守基準の達成率(%)	100	100	100%									
										100					
7	取組項目 iii	希少野生動植物保全事業費		1,040	1,040	8,042	一般県民	レッドリスト掲載種のモニタリング調査を実施するとともに、保護が必要な野生動植物種の捕獲・採取等を規制する地域指定を行った。	活動指標	希少野生動植物保全事業検討会の開催(回)	3	3	100%	専門家による会議を2回実施し、希少種の保全等を検討した。既指定の蝶類1種について規制する保存地域の指定を全県に拡大し保護の充実を図った。	○
				1,028	1,028	8,046			2	2	100%				
				1,785	1,785	7,996			2						
	自然環境課	成果指標	自然環境保全地域等指定数(件)	1	1	100%									
										1					
8	取組項目 iv	大村湾環境総合対策事業	H28-30	43,613	8,171	1,608	大村湾流域	大村湾の水質保全及び環境保全等を推進し、生物の生息場を確保するため、H28.6月末、大村市沿岸に浅場を造成した。また、H30.3より、時津町沿岸にも浅場造成を開始した。	活動指標	再生砂による浅場造成面積(ha)	1.0	1.0	100%	造成した浅場には二枚貝の幼生が成育し、また、鳥やエイ等による捕食の跡が見られるなど生物の生息の場となりつつある。	○
				18,028	11,665	4,023			1.0	1.0	100%				
				32,480	11,180	7,996			1.1						
	地域環境課	成果指標	二枚貝の個体数(万個)	0	-	-									
										80	185	231%			
										80					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 生物を活用した大村湾や諫早湾干拓調整池の水質浄化の取組

(大村湾関係)

- ・大村市地先に約1ha、3,000m³の再生砂を活用して浅場を造成した。
- ・造成した浅場は、鳥やエイの捕食跡や二枚貝の幼生の生息が確認されており生物の生息の場となりつつある。
- ・また、最近SNS等でインスタ映えスポットとしてテレビで全国放送されるなど様々なメディアで取り上げられており、住民の大村湾に対する親水意識の向上に加え、本事業への関心度も高くなっている。
- ・現在、時津町沿岸に約0.1haの浅場を造成している。
- ・大村湾の浮遊ゴミ清掃を継続して行うことにより県民の環境保全意識を保持する必要がある。
- ・次期「大村湾環境保全・活性化行動計画」の策定に向けて関係機関と連携して作業を進めている。

(諫早湾干拓調整池関係)

- ・水質保全目標を達成していない原因として、流域からの生活排水や施肥・農薬使用に伴う面源由来の汚濁負荷や気象の影響など複数の要因が存在する。引き続き関係機関一体となって各種施策を進めていく。
- ・二枚貝の生息可能性調査を諫早湾干拓調整池流域の用水路において実施し、二枚貝の生育が可能な環境であることが確認されたことから、今後、更に調査を進め二枚貝生息場の拡大に繋げていく。
- ・大雨時の水流や鳥類魚類による捕食などの対策が必要である。
- ・中央干陸地におけるヨシの維持管理手法等に関する調査として、ヨシを有機質素材として活用した堆肥製造試験を行った結果、十分に利用可能な効果が認められたことから、タバコ栽培の肥料として活用した。また、ヨシの活用においては、ヨシの生育への影響やヨシ原に生息する希少な鳥類など生態系の配慮に関する調査を行うとともに、有識者や地元の保護団体等からの配慮事項等の意見を集積した。これらの結果等を踏まえて、今後の活用の方策について関係機関と検討を進めていく。
- ・これまで暫定延長していた「第2期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」の改訂に向けて、九州農政局など関係機関と連携して作業を進めている。

ii) 下水道施設の高度処理化の推進

大村湾南部浄化センターの高度処理化工事を進めている。国からの交付金を確保し、事業の進捗を図る必要がある。

iii) 希少野生動植物種保存地域の指定

- ・希少野生動植物種保存地域の指定などによる長崎県を特徴付ける動植物種や生態系の保全に関しては、希少種の捕獲採取の規制を充実し保護を進めており、今後も生息生育環境の保全を図る必要がある。

iv) 再生砂による浅場づくり

- ・大村市地先に約3,000m³の再生砂を活用した浅場造成を行い、県内で発生した産業廃棄物の利活用の一つのモデルとなった。
- ・造成した浅場は、鳥やエイの捕食跡や二枚貝の幼生の生息が確認されており生物の生息の場となりつつある。
- ・また、最近SNS等でインスタ映えスポットとしてテレビで全国放送されるなど様々なメディアで取り上げられており、住民の大村湾に対する親水意識の向上に加え、本事業への関心度も高くなっている。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1		「いさかん」水辺の保全推進事業	中央干陸地のヨシを必要な資源として活用したい民間業者の取組を推進していくとともに、調整池や中央干陸地における環境学習を実施していく。	③⑤⑦	次期行動計画の推進を図るため、中央干陸地のヨシの適正管理・活用等の事業について、国や関係機関と連携して取り組む。	改善
2	取組項目 i	大村湾環境総合対策事業	改善傾向にある大村湾の水質は継続して維持していく必要があるため、沿岸市町及び関係機関と連携して、次期行動計画策定に向けた作業を進めていく。	③⑤⑦	次期行動計画に基づく施策を関係機関、沿岸市町と連携して進めていく。また、貧酸素水塊対策等の適用可能な他の方策について関係機関と連携して検討していく。	改善
3		諫早湾干拓調整池水辺空間づくり事業	諫早湾干拓調整池は、いまだ環境基準を超過しており水質改善には至っていない状況にあることから、効果的な調整池の水質改善対策について関係機関と協議を進めていく必要がある。また、次期行動計画を策定するため、現在、九州農政局等の関係機関と連携して、策定作業を進めている。	③⑤⑦	次期行動計画策定に基づく施策を関係機関と連携して推進していく。水質改善のための手法の検討については、中央干陸地のヨシの刈り取りや利活用など積極的に提案し、引き続き国と連携して干拓調整池の水質改善策に取り組む。	改善
7	取組項目 iii	希少野生動植物保全事業費	本県に生息・生育する希少な生物種へ影響を及ぼすおそれのある外来生物等について、早期発見と防除のための生息・生育状況の把握や普及啓発を行う。	-	本県の自然環境を代表する希少な生物種等は、開発などの外圧による生息・生育環境の悪化や環境変化の影響を受けていることから、専門家の現地調査等による状況把握を継続する必要がある。これらの種へ影響を及ぼすおそれのある外来生物等についても早期発見と防除のための生息・生育状況の把握が必要である。外来生物等については予見が極めて困難で、県民においても既往の知識が少ないことから、今後は従前の希少種のモニタリングと併せ外来生物等の情報収集も実施し、作成した普及啓発資料を活用するなどして県民に外来生物等に関する正しい知識を広めていく。	改善
8	取組項目 iv	大村湾環境総合対策事業	現在、時津町沿岸で造成中の浅場については、工事完了後のモニタリング調査を実施して、二枚貝の生息状況等を確認する。	③⑤⑦	造成した浅場については、引き続きモニタリングにより検証作業を行う。また、本事業の継続を含め、関係機関と協議のうえ、方針等を決定していく。	改善

注：「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点